

教宣福岡

2004年8月2日

全損保日動外勤支部

福岡分会教宣部

第1号

いま、これからどうするべきかが問われています

私たち契約係社員の仕事ぶりは、今まで長年に亘って多くの契約者の付託に応え、会社発展の一翼を担って来た実績を根底から覆さなければならないほど、信用できないものだったのでしょうか？

夫婦共働きが多くなった現在、休日営業や、早朝や深夜に訪問することは稀なことではありません。自宅で直接計上や設計書作成、満期案内作成などに費やす時間も半端ではありません。それなのに、ほんの一部の契約係社員の不祥事が、制度の問題であり契約係社員全体の問題であるとする会社の姿勢は、責任を私たちに転嫁するものです。今回の大阪の事件は、会社も以前から承知しておきながら、見過ごしてきた結果であり、責任は一に会社にあることは明白です。それなのに会社から7月23日に、一部の組合に提案された内容は、「原因は制度にある」とするものとなっており、会社の責任を回避するというものであり、まったくの的外れであるといわざるを得ません。

私たち契約係社員は、時代の趨勢に合わせて「改めるは改め」「変化すべきは変化」してきました。まったく改めないといっているのではありません。管理と罰則だけを強化することだけが不祥事を防止する手段ではないはずで

提案どおり実施されれば、営業活動の効率は格段に悪くなり、それが新たな不祥事を発生させる原因となることを私たちは恐れています。契約係社員制度の歴史をも否定するような提案が“10月1日ありき”として、十分な論議も検証もされないまま、組合の主体性もなく、組合員の声も聞かずに会社のルールに乗って承認されようとしています。

契約係社員の皆様、それが制度を維持・拡大する選択でしょうか？

提案内容を見て、「今のうちに代理店にならなければ代理店にさえもなれない」と将来に不安を感じて、中途退職をいう仲間の声があちこちから聞こえてきます。それでいいのでしょうか？まったくの会社の思惑通りではありませんか！

今一度、あなたの本心に問いかけてみてください！

今とこれからをどうするべきかを！